

◇思い出の東京オリンピック

大槻伸次

今年開催される予定だった“2020 東京オリンピック”は突然の「新型コロナウイルス」の世界的な流行（パンデミック）により残念ながら1年延期となってしまった。東京でオリンピックが開かれるのは2回目であるが、前回、昭和39年の東京オリンピックは94か国から5千人を超える選手・役員が参加し開催された。そこで当時の日本を俯瞰すると、日本は高度成長の始まりの頃で、オリンピックが起爆剤となり日本中が活気に満ち溢れていた。そして産業や交通が急速に発展し、東海道新幹線や首都高速道路の開通、そして自動車・カラーテレビ・クーラーと云った新「三種の神器」の普及など、国民生活が大きく向上していった時代だったのである。他に、政治の世界では5月30日、古いタイプの政治家と云われた大野伴睦氏死去、10月25日喉頭がんの為、池田勇人総理が辞意を表明し佐藤栄作氏が後継の総理大臣に指名された。産業界では6月1日、新三菱重工、三菱日本重工、三菱造船が合併し三菱重工が発足した。世界では5月27日、インドのネール首相が死去した。10月ソ連共産党第一書記フルシチョフ辞任。後任にコスイギン首相就任。

群馬製作所では1月31日（小雪降る）は会社創立記念日（2月1日は休日なので振替）で14時45分終業。昼食は赤飯、記念品は当群馬製作所製「ランタン」だった。

私的な事では、オーディオマニアと云われたが、仲間にそそのかされ第2級アマチュア無線技士資格を取得し、アマチュア無線の世界に傾倒していたことなど思い出される。太田アマチュア無線クラブ設立時から所属した。当時、購買課の山本信夫さん（JA1EYR 現在はサイレントキー）に100ワットと10ワット出力のアマチュア無線送信機2台を組み立てて戴いた（現存している）。以下、当時の日記帖をもとに前回の東京オリンピックを振り返ってみた。

昭和39年（1964年）10月9日（金曜日）

東京オリンピックの聖火が、8月28日オリンピックの発祥国であるギリシャのオリンピア（聖地）で採火され東京へ。立ち寄り先の香港では、台風のため聖火の空輸が遅れたため、9月9日、聖火は沖縄で分火され、初の国産旅客機であるYS-11にて、沖縄から鹿児島に運ばれた。なお、分火された聖火は沖縄本島を予定通りリレーし福岡で合流する。他に日本国内を四つのコースによってリレーされ運ばれた聖火は、今日10月9日、東京都庁にて集火された。

群馬県は、新潟県より三国峠にて引継ぎ、国道17号を東京に向かってリレーされた。オリンピック前夜祭は後樂園にて開催された。三波春夫氏の東京五輪音頭や民謡などが披露され大変賑やかな祭典だった。

10月10日（土曜日）

東京オリンピック開会式のため会社は臨時休業となった。今日はめったにない日本晴れ。爽やかな西よりの風が吹き、空はまばゆいばかりに澄み亘った。国際スポーツの祭典である、第18回東京オリンピックを称えるような素晴らしい日和となった。

私は、会社が休みとなったので午前中家事を済ませ、午後2時より東京オリンピッ

クの開会式のテレビ中継（白黒テレビ）に見入る。テレビ画面には、安川大五郎五輪組織委員長が大きく映し出され力強い挨拶が流れる。続いてブランデー IOC 会長の挨拶が始まった。その後、ブランデー氏より天皇陛下への開会宣言のお願いがあり、天皇陛下の開会宣言が行われてオリンピックの幕がきって落とされ選手団の入場行進が始まった。トップはオリンピック発祥国であるギリシャが堂々と競技場に入場してきた。日本は開催国のためしんがりをつとめたが、全選手団のうちでは最も行進が綺麗だった。

参加選手団は 1 位米国、2 位統一ドイツ、3 位日本、4 位ソビエト連邦だった。日本選手団の制服は男子女子共に赤のブレザー、男子は白のズボン、女子は白のプリーツスカートで入場。そのコントラストは実に美しい配色であったに違いないが、白黒テレビではその良さがわからず非常に残念だった。

また、開会式に花を添えたのは、澄み渡った大空に自衛隊のジェット機がカラーで五輪を青空にくっきりと描いたのが素晴らしかった。この、東京オリンピックの開会式の模様が NHK 代々木の放送センターより、シンコム衛星により米国に生中継された。この中継は大成功で、アメリカでは深夜だったが、大勢の国民が見たそうである。そして、画質、音質とも国内放送と変わらなかったと伝えられた。



10月11日(日)

オリンピックは今日から競技に入る。朝晩は相当に冷え込み肌寒く感じられた。日中は、平年並に温度が上がり心地よい天気になった。日光連山には雲一つない。男体山の西にある日光白根山では薄く雪化粧していた。我が家（生家）の裏手の檜の木の手ッペンでは「もず」が、キィーキィーと甲高い声でさえずって、乾いた空気の中を響き渡った。秋が深まったんだなーと強く感じさせられる日和だった。

つい先日まで、汗水垂らして除草した田んぼももううっすらと黄色に色づいてきた（休日は農業の手伝いはあたりまえだった）。もう直ぐ刈入れのときがやってくる。昨日に続き今日もなんという素晴らしいオリンピック日和であろうか。

(2020/6/23 記)